

■ 会社の概要 (2024年6月21日現在)

商号	株式会社 ノジマ(コード:7419)	
英文名	Nojima Corporation	
設立	1962年4月	
資本金	6,330百万円	
役員	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役 兼 代表執行役 社長 野島 廣司 ● 取締役 兼 代表執行役 副社長 福田 浩一郎 ● 取締役 兼 代表執行役 専務 温盛 元 ● 取締役 兼 執行役 國井 弘文 ● 取締役 兼 執行役 山根 純一 ● 取締役 兼 執行役 石原 彩子 ● 取締役 兼 執行役 幡野 裕明 ● 取締役 (社外) 平本 和生 ● 取締役 (社外) 高見 和徳 ● 取締役 (社外) 山田 隆持 ● 取締役 (社外) 堀内 文子 ● 取締役 (社外) 池田 匡紀 ● 取締役 (社外) 柴原 多 ● 取締役 (社外) 林 文子 ● 取締役 (社外) 井上 幸夫 ● 執行役 疋田 宜裕 ● 執行役 稲垣 健志 ● 執行役 佐藤 徳之 ● 執行役 安間 大悟 	
従業員数	社員 11,541名 / 契約社員・パートタイマー 6,990名(連結) (2024年3月31日現在)	

■ 株主メモ

決算期	毎年3月31日に決算を行います。
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日(中間配当を実施する場合)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 / 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (お問い合わせ先) 〒137-8081 / 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
公告掲載	電子公告 公告掲載URL https://www.nojima.co.jp/ir ※やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

■ 株主優待のご案内

株主優待券	3月31日及び9月30日現在で議決権を有する株主に対し、年2回贈呈
利用方法	現金、Jデビットカードによる支払いの場合には優待割引券の使用により購入金額の10%が割引になります。また各種クレジットカード、ノジマ取扱い電子マネー・ノジマ取扱いバーコード決済、国際ブランドのデビット機能付キャッシュカード、ショッピングクレジットによる支払いの場合には優待割引券の使用により購入金額の8%が割引になります。但し、ノジマオンラインでの購入の場合は後日ノジマオンラインポイントにてポイント返還、または相当額を銀行振込にて割り戻します。詳細については、株主優待券同封書類をご参照ください。
有効期限	● 3月31日発行基準の優待割引券 / 翌年1月31日まで有効 ● 9月30日発行基準の優待割引券 / 翌年7月31日まで有効
取扱店舗	● 株式会社ノジマの全店舗(詳しくは当社ホームページ (https://www.nojima.co.jp) をご参照ください) ● ノジマオンライン※店舗のない地域にお住まいの株主で、ご優待割引券を使用して、当社の取り扱い商品をお買い求めになりたい方は、ノジマオンラインでのご利用をお薦めします。



株式会社 ノジマ 〒220-0005 神奈川県横浜市西区南幸一丁目1番1号 JR横浜タワー25階(受付)
TEL.045-228-3546(代) FAX.050-3116-1250
「投資家のみなさま」問い合わせアドレス info@nojima.co.jp

- IR情報Webサイト <https://www.nojima.co.jp/ir/>
IR情報ページでは、決算短信、有価証券報告書等のIR関連資料、株式事務に関する情報といった株主・投資家の皆様のための情報をご覧いただけます。
- ノジマオンライン ホームページURL <https://online.nojima.co.jp/>



株主のみなさまへ

第62期 事業報告書 2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日



■ ノジマの志

お客様に喜ばれて
デジタルGS4を普及させ、日本の発展に貢献する。
Goods・Solution【Support / Service / Setting / Soft】
デジタル一番星

■ 全員経営理念

～お客様にさらに信頼されるノジマへ～

- 社会に貢献する経営
- オープンで公正な経営
- 独創的で革新的な経営
- 人間愛がある経営
- 向上心がある経営



■ ごあいさつ P. 2	■ CSRの取り組み P. 12
■ トップメッセージ P. 3～4	■ 財務ハイライト P. 13
■ 新店紹介 / 店舗数推移 P. 5～6	■ 決算の概況 P. 14
■ ESGの取り組み P. 7～8	■ 会社の概要 / 株主メモ / 株主優待のご案内 P. 15
■ トピックス P. 9～11		

■ ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当社は 2024年3月31日をもちまして、第62期(2024年3月期)の営業を終了いたしましたので、ここに
ご報告申し上げます。

当連結累計期間におけるわが国経済は、全体としては緩やかな回復基調にあります。一方で、物価は緩やかながら上昇
を続けている事に加え、中国経済への懸念や中東地域情勢などの景気下振れリスクが点在していることから、先行き
につきましてはこれらの動向に注意が必要な状況にあります。

このような状況下、当社グループは「デジタル一番星」、「お客様感動No. 1」を常に追求し、その実現のため「選び
やすい売場」及び「お客様の立場に立った接客」を常に心がけ、コンサルティングセールスのレベルアップやお客様のニ
ーズに合ったサービスの充実に取り組んでまいりました。

これらの結果、当連結会計年度における売上高は 761,301百万円(前年同期比121.6%)、営業利益は 30,560百
万円(前年同期比91.0%)、経常利益は 32,937百万円(前年同期比90.9%)、親会社株主に帰属する当期純利益は
19,979百万円(前年同期比85.7%)となりました。

また、ノジマグループの経営指標として重要視しております EBITDA(※) は、57,540百万円(前年同期比103.2%)
となりました。

(※) EBITDA=経常利益+支払利息+社債利息+減価償却費+のれん償却額-持分法による投資損益

今後とも、グループの総合力を高めながら、株主の皆様のご期待に応えられるよう、さらなる企業価値の向上に努
めてまいりますので、皆さまの変わらぬご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

代表執行役社長 野島 廣司

■ トップメッセージ

市場環境にもノジマにも大きな変化が訪れました。 新たな仲間たちとのシナジーを発揮し、 第63期は、より大きな飛躍を目指してまいります。

ノジマグループ

国内の市場環境について、物価は緩やかながら上昇を続けていることに加え、中国経済への懸念や中東地域情勢などの景気不振リスクが点在していることから、先行きは不透明な状況が続くと予想されます。

ノジマグループは首都圏中心に積極的な出店を継続し、新規顧客の創造に取り組んでまいりました。今後も人と店舗への投資を行い、お客様に喜ばれる店舗づくりを進めてまいります。

第62期のノジマグループ連結の業績については、増収減益となりました。2023年1月よりコネクシオ株式会社(以下コネクシオ)が連結対象になったことにより売上高・売上総利益は大きく伸長した一方で、販管費の抑制には課題が残りました。第63期は、更なる成長の年となるよう、引き続き尽力してまいります。

今後も、お客様に寄り添ったコンサルティングセールスを行う人材の育成を継続し、地域の皆様に必要とされる商品やサービスの提供に努めてまいります。

デジタル家電専門店運営事業

デジタル家電専門店運営事業については、猛暑によりエアコン等季節品の需要が高まった一方、端末買い換えサイクルの長期化や電気通信事業法の改正により携帯電話の販売が減少しました。

このような中で、電気代高騰により需要が高まっている省エネ製品のご案内をはじめとして、お客様のニーズに合わせたコンサルティングセールスを続けてまいりました。また、GlobalLogic Japan株式会社との協創による「DXプロジェクト」のサービス提供を開始し、お客様がより快適にお買い物ので

きる店舗作りを進めてまいりました。こうした取り組みを行ったものの、携帯電話の販売減少の影響が大きく、62期は増収減益となりました。

今後も人・店舗への投資は継続しつつ、省エネ製品等お客様に喜ばれる商品を確認し、コンサルティングセールスによりお客様に寄り添った商品・サービスを提供してまいります。

キャリアショップ運営事業

キャリアショップ運営事業については、オンライン販売へのシフトが進み、手数料収入の減少も予想される中で、代理店はこれまで以上に質の高い店舗運営が求められています。また、端末価格の高騰に伴い、中古端末の需要が拡大し、携帯端末の買い替え需要も鈍化しております。

このような状況下、お客様のニーズに合わせたコンサルティングセールスを継続し、最適なプランをご提案することで多くのお客様に喜ばれることができました。また、来店予約の仕組みの見直しを行い、受け入れ最大化に努めました。

コネクシオを子会社化したこともあり、第62期は増収増益を達成いたしました。コネクシオにつきましては、ノジマ流の考え方の育成や各部署での人材交流を行うことで、コネクシオでもお客様に喜ばれる店舗運営を行ってまいります。

今後もキャリアショップの店舗数減少など、厳しい市場環境が続くことが予想されます。人材への投資や既存店舗の移転、改装を継続し、お客様に寄り添ったサービスをご案内することで、質の高いショップ運営を進めてまいります。

インターネット事業

インターネット事業については、ニフティ株式会社が提供する安心・安全なネットワークサービスの拡販に注力した結果、3月末時点のブロードバンド会員数は129万件(前年同月から0.9万件の純増)となりました。子会社である株式会社セシールにおいては、構造改革に伴う集中と選択を実施し、お客様に喜ばれる商品の開発に取り組みましたが、売上及び利益については苦戦が続き、インターネット事業全体では減収減益となりました。

高品質・超高速なブロードバンド接続サービスの重要性は、より一層高まってくると予想されます。日々変化するお客様の声に耳を傾けながら、お客様のお困りごとを解決し、求められている各種サービスの開発・改善・拡大に取り組んでまいります。

海外事業

海外事業については、店舗を展開する東南アジア諸国においても物価の上昇が続いているほか、中国経済の減速の影響を受け、経済成長は鈍化傾向にあります。マレーシアにおいてはインフレ率の低下が進んでいるものの、各国の経済活動においては注視が必要な状態が続いております。

このような状況下、改装やスクラップアンドビルドを継続しつつ、接客の質の向上のため人材育成に投資を行いました。日本でのノウハウを海外にも取り入れることにより、各地域のお客様に喜ばれる店舗づくりを進めてまいりました。その結果、売上高は前年を上回りましたが、販管費の増加もあり、経常利益は減収となりました。

今後とも各国の動向を注視しつつ、人と店舗への投資を継続することにより、従業員と店舗の質を高めてまいります。

金融事業

金融事業については、3月には日銀がマイナス金利政策を解除したものの、金融環境を緩和的に保つ姿勢の影響で円が

売られ、米ドル/円相場は1米ドル=151円台、ユーロ/円相場は1ユーロ=163円台で期末を迎えました。その他主要国の通貨についても軒並み円に対して下落基調が続きました。

このような状況下、FX初心者でも運用しやすい当社独自の運用手法である「トラリピ」のサービス拡充を進め、トラリピと相性の良い通貨ペア3種への分散投資の推進を行いました。

外国為替相場の今後の動向は不透明な状態にあります。トラリピ関連サービスの推進を継続し、お客様のライフスタイルに寄り添った快適な資産運用をご提案してまいります。

株主の皆様へのメッセージ

継続的な成長と安定配当を当グループは基本方針としております。上場以来一度も減配することなく配当を続けてまいりました。

本年度の期末配当は、1株につき18.0円とさせていただきます。これにより、中間15.0円(2円増配)、期末18.0円(3円増配)、通期では33.0円(5円増配)の配当といたします。これからも社会の変化に対応しながらノジマグループ全体で発展させていくためにも、財務体質の強化と新しい挑戦を積極的に行っていきたいと考えております。

今後とも株主の皆さまに、継続してご支援いただけますよう、心よりお願い申し上げます。



■ 新店紹介

1 デジタル家電専門店運営事業



■ イトヨーカドー小岩店(2023.10.28オープン) ■ ジョイナステラス二俣川店(2023.11.4オープン) ■ 下田とうきゅう店(2023.11.25オープン)

デジタル家電専門店運営事業は、下期に【西武飯能ペペ店】【イトヨーカドー小岩店】【ジョイナステラス二俣川店】【グランデュオ立川店】【イトヨーカドー伊勢原店】【下田とうきゅう店】【ララガーデン春日部店】【柏モディ店】【イトヨーカドー四つ木店】【川崎枞形店】10店舗を新規出店し、4店舗を閉店いたしました。今期も人材への投資と店舗への投資を継続し、首都圏中心の好立地へ積極的な出店を行っております。また、お客様の声をもとに、選びやすい売り場、品揃えの充実に向けて、既存店の改装も進めてまいります。

2 キャリアショップ運営事業



■ ドコモショップ青葉台店(2023.11.1オープン) ■ ソフトバンクフジ夏目(2024.3.1オープン)

キャリアショップ運営事業は、下期に8店舗を新規出店・譲受し、32店舗を閉店・譲渡いたしました。各通信事業者によりキャリアショップの店舗数を大幅に減らす方針が示され、これまで以上に質の高い店舗運営が求められる中、【ドコモショップ青葉台店】【ソフトバンクフジ夏目】など、より良い立地への移転や店舗の改装を進め、お客様に満足いただける店舗展開を行っております。今後もお客様のニーズに合わせたコンサルティングを通じ、お客様に喜ばれる店舗運営を継続してまいります。

3 海外事業

ノジマグループの海外事業を展開するアジア諸国ではコロナ規制の緩和もあり、コロナ前の生活環境が戻りつつあります。中国経済の減速や、物価の上昇も継続しており依然として経済活動に不安定な部分はありますが、今期はCOURTSインドネシア及びTMT社で各1店舗が出店いたしました。当社は、引き続きお客様に喜ばれる店舗づくりによる業績向上に向けて更なる努力を続けてまいります。

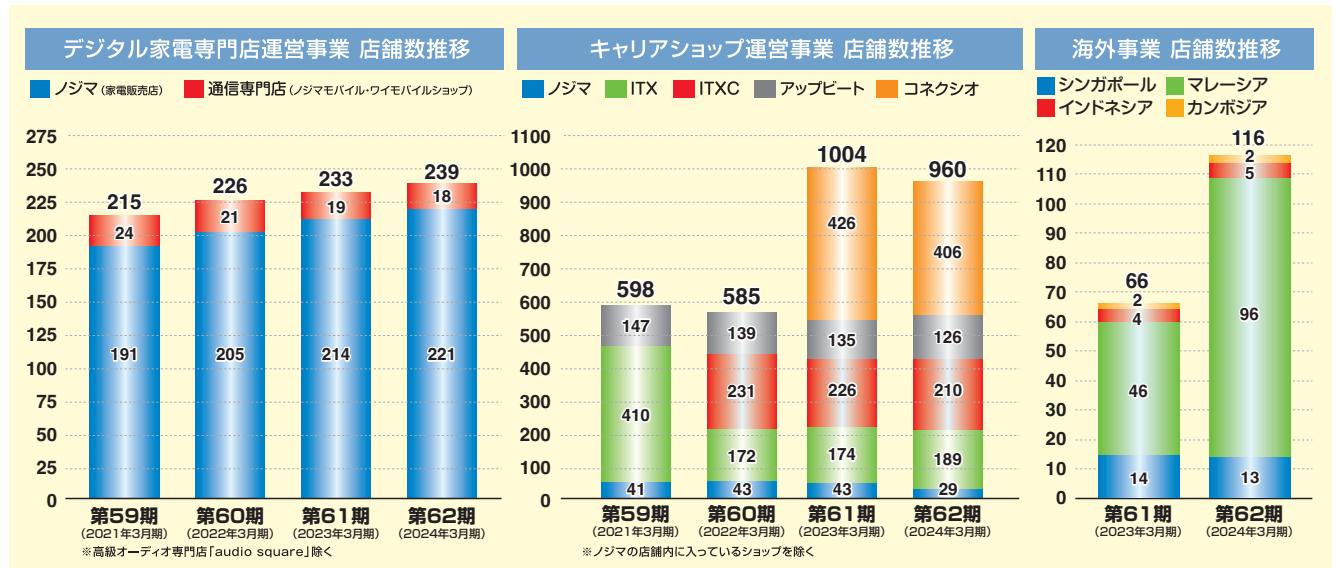


■ Courts AEON Sentul City店



■ TMT社 Mid Valley Megamall Realme店

■ 店舗数推移 (セグメント別)



ESGの取り組み

環境(E:Environment)

1 自然環境によるノジマの取り組み

ノジマではこれまで様々な自然環境に対する取り組みを実施しました。2007年に環境面と安全面を考慮して、「石油暖房器具」の販売を中止し、現在も取り扱いをしておりません。2010年には業界で初めて電気使用量とCO2の削減を目的とした「白熱球店頭取扱中止」を宣言し、白熱電球からさらに消費電力の少ないLED電球・電球型蛍光灯への買い替えを促進しました。

現在は、「省エネ」「節約」が叫ばれる時代の変化に対応するべく、社内資格制度「省エネコンサルタント」を2022年から開始し、お客様の省エネ家電選びのサポートができるよう取り組んでおります。

今後もノジマは時代の変化にいち早く対応し、価格だけでなく、省エネ商品がお客様と地球に与える効果を伝え続けます。



社会(S:Social)

1 令和6年能登半島地震による被災地への支援

この度、令和6年能登半島地震で被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

ノジマと、グループ会社であるアイ・ティー・エックス、ITXコミュニケーションズ、コネクシオは、被災者の救済および被災地の復興に役立てていただくため石川県庁を通じ、義援金計1,000万円の寄付を2024年1月15日付けで行いました。その他、ノジマ全店舗(257店舗)、オンライン通販サイト「ノジマオンライン」でも募金を受け付けております(※2024年11月30日(土)まで受付中)

今後も復興に向けた支援に取り組んでまいります。



2 産官学共同で詐欺被害防止の動画作成&公開

ノジマとグループ会社であるニフティは、神奈川県警察本部サイバー犯罪捜査課および学校法人岩崎学園情報科学専門学校のサイバー防犯ボランティアと共同で、インターネットに潜むフィッシング詐欺被害防止を目的とした啓発動画を制作しました。神奈川県内のノジマ全61店舗の店舗のデジタルサイネージや、ノジマ公式YouTube、神奈川県警公式YouTubeでも視聴可能です。

昨今では、インターネットは欠かすことのできない生活インフラとなっており、中でも金融機関を装いフィッシングサイトへ誘導する手口は多数確認され、2023年の被害件数は全国で5,528件、被害額は約86億円といずれも過去最多となりました。

今後も啓発活動に取り組み、より多くの方に注意喚起を促すことで、さらなる詐欺被害拡大の防止を目指します。



3 横浜市消防局と第3回『ノジマジャック』を開催

ノジマは2021年より横浜市消防局とタイアップし、店舗へご来店いただいたお客様の防災への関心を高めることを目的に防災啓発活動に取り組んでいます。3回目となる今回は、ノジマ横浜四季の森店で消防車両の展示やスタンプラリー等のイベントを実施。また、初めての取り組みとして、横浜市消防局の横浜市消防音楽隊とノジマのスポーツチーム(ノジマ相模原ライズ・ノジマ相模原ライズチアリーダーズSuns・



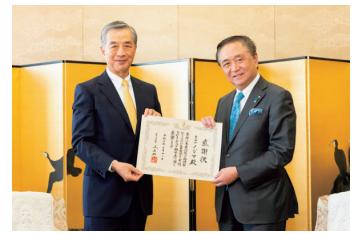
ノジマステラ)と共にコラボ動画を作成し、店内で放映し啓発を促しました。

今後も経営理念である「社会に貢献する経営」の具現化に向け、地域社会の皆様のお役に立つ取り組みを進めてまいります。

4 デジタル振興寄付

ノジマは社会貢献活動の一環として、1984年から、当期利益の1%または経常利益の0.6%(注)を限度額として、当社の出店地域の自治体に現金及び商品券、省エネ製品、家電などを寄贈してまいりました。39年目となる今回は、127の自治体に対し、「蓄電池」「手回しラジオ」「iPad mini」「テレビ」「サーキュレーター」など、需要が高い商品、2億1,000万円相当の寄付を行いました。

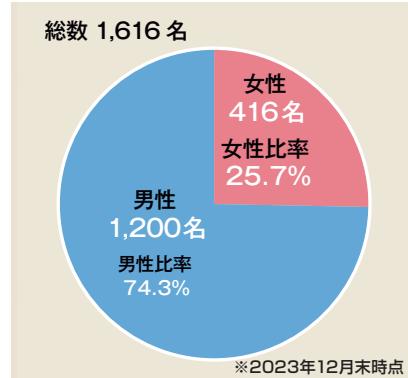
今後も経営理念に「社会に貢献する経営」を掲げ、地域社会との共栄やサステナビリティの活動に積極的に取り組んでまいります。(注)2020年度までは経常利益の0.4%が上限



5 多様性×ノジマ

ノジマの店舗はお客様に喜んでいただく価値提供の場であり、性別、年齢、個々の事情等関係なく、多様な従業員が活躍できる場を用意しています。

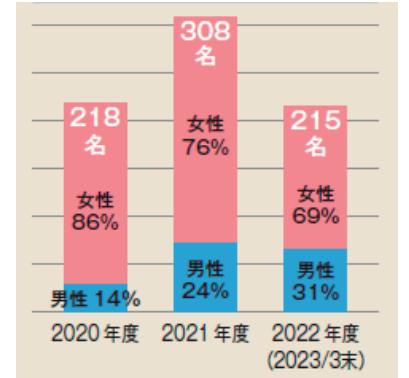
・女性役職者数



・学生パートナー(アルバイト)役職者数



・育児休暇利用者数



ガバナンス(G:Governance)

1 情報開示:コーポレートガバナンス報告書

当社は2003年6月より「委員会等設置会社(現指名委員会等設置会社)」へ移行いたしました。経営環境の急激な変化に対応し、迅速且つ確かな意思決定を図るために業務執行を執行役に委ね、取締役会は基本的な経営戦略の決定と取締役及び執行役の業務執行を監督する役割を担い、業務執行とその監督機能の役割分担を明確にした体制を取っております。

また、当社は既に、議決権電子行使プラットフォームを導入し、機関投資家の皆様や海外投資家の皆様にインターネットによる議決権電子行使を可能とする環境を整えてまいりました。なお、株主総会招集通知についても既に英文開示を行っております。また、原則5-2に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を追記しました。

各ステークホルダーとの対話については、毎年5月、11月は決算説明会、6月に株主総会を開催し、2024年3月には個人投資家向け会社説明会を開催するなど常に情報をオープンに開示しております。今後も透明度の高い経営体制の構築を目指し、引き続き情報開示につとめてまいります。



2024年3月開催
個人投資家説明会動画

◆CSRの取り組み

スポーツを通じて日本を元気に

◆ノジマ Tリーグ(卓球)

2018年に開幕した卓球「Tリーグ」にタイトルパートナーとして協力しております。Tリーグが掲げる「世界NO.1の卓球リーグを実現する」や「卓球を通じて人生を豊かに」という理念を応援しております。2023年6月には2024年のパリ五輪の選考ポイントの対象となるTリーグ 個人戦 NOJIMA CUPを開催。今後もノジマ Tリーグ所属選手の世界的活躍が期待されます。

◆横浜 DeNAベイスターズ(プロ野球)

2008年より公式ユニフォームスポンサーとして地元球団を応援しております。

本拠地の横浜スタジアムで、当社のコンセプトとあわせた「デジタル一番星 DAY」の開催や、ブルーライトシリーズの協賛も行っております。

今年でスポンサーとなり15周年となるため、2023年シーズンの開幕にあたり、チームの更なる活躍と試合を通じた地域社会の活性化を願い、「15周年記念プロジェクト」と題した15個の企画を実施いたしました。今後も引き続きスポンサー契約を通じて、地元横浜のみならず、全国のファンの皆様とともに横浜 DeNAベイスターズを応援することで、日本野球界の更なる発展と、地域社会の活性化に貢献してまいります。

◆陸上選手の採用

2023年4月より、陸上競技で活躍している選手3名を、第一期メンバーとして新卒採用いたしました。

そのメンバーの一人、児玉悠作が「2023アジア陸上競技選手権大会」に男子400mハードルの日本代表選手として選出され出場いたしました。陸上部の採用は、勝ち負けのあるスポーツの世界で努力してきた人材に、社会人としての業務と、陸上競技活動を両立できる環境を提供し支援をしていくもので、ノジマとして初めての試みとなります。

今後も世界の舞台で活躍する選手を応援し、「社会に貢献する経営」の理念のもと、日本のスポーツの発展に貢献してまいります。

◆ノジマステラ神奈川相模原(女子サッカー .WEリーグ)

2016年になでしこリーグ2部で優勝し、神奈川県内初のなでしこリーグ1部入りを果たしました。2021年より、初年度参入チームとして、日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」へ参入。プロとしての自覚と責任、誇りを持ち、今後も日本女子サッカー界の発展や女性活躍社会への貢献をしてまいります。

◆ノジマチャンピオンカップ箱根シニアプロゴルフトーナメント

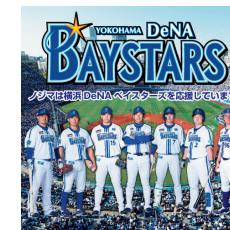
2015年に発生した箱根山火山活動により観光客減などの影響があったことを受け、「箱根を元気に!」をコンセプトに開催された本大会も今年で第8回目となりました。昨年度より始めた賞金の一部の箱根町への寄付も、引き続き実施してまいります。

◆ノジマ相模原ライズ(アメリカンフットボール)

アメリカンフットボール Xリーグ1部に所属する「ノジマ相模原ライズ」をスポンサーとして支援しています。相模原市内を中心に、地域清掃活動やイベントの参加、小学校でのあいさつ運動等を通じ、社会貢献活動も継続しております。

◆NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

2019年よりNHK杯国際フィギュアスケート協議大会の協賛を行っております。2022年北京オリンピックにおいて、日本人選手のメダル獲得の活躍もあり今後も世界で活躍する選手達を応援してまいります。



4 「NIKKEI社歌コンテスト2024」にて、ノジマが第2位&主催者特別賞を受賞!

2024年1月24日(水)に日本経済新聞社が主催する「NIKKEI社歌コンテスト2024」にて、120社中、第2位と主催者特別賞を受賞いたしました。

この社歌「Present」には、ノジマが大切にしている理念を感じていただきたい、そして、すべての従業員にノジマが大切にしているこの信念を思い返すきっかけにしてもらいたいという2つの願いが込められております。



※ノジマ公式
YouTubeチャンネル
社歌「Present」

5 社内婚活イベント“NOJIKON” 第4回目を実施

2023年11月30日(木)に社内婚活イベント“NOJIKON”を横浜ロイヤルパークホテルにて開催いたしました。2017年より社員の発案から実施に至り、2020年以降、新型コロナウイルスの感染蔓延防止の為自粛しておりましたが、本年よりグループ会社含む社内からの実施を希望する声を受け、4年ぶりに再開することとし、過去最大となる16組のマッチングが成立しました。

今後も微力ながら日本の未婚化・少子化問題にも貢献できるよう、取り組みを続けてまいります。



6 野島廣司著『人生100年時代の就活相談』2月27日発売!

野島廣司の書籍『人生100年時代の就活相談』をダイヤモンド社から2月27日(火)に発売いたしました。この本は、将来に対して真剣に向き合う就活生向けに制作され、今後の指針を見出すヒントとして、仕事やキャリア、人生において大切にすべき「考え方」をお伝えします。自分で選んだ会社でやりがいをもって働き、幸せな人生を歩むきっかけとして本書を役立てていただくと幸いです。



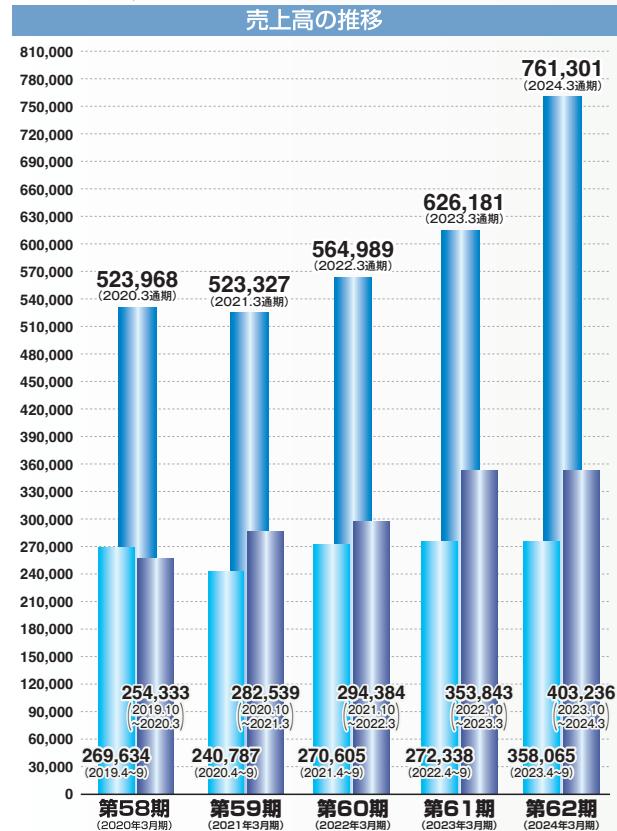
↑購入はこちらから



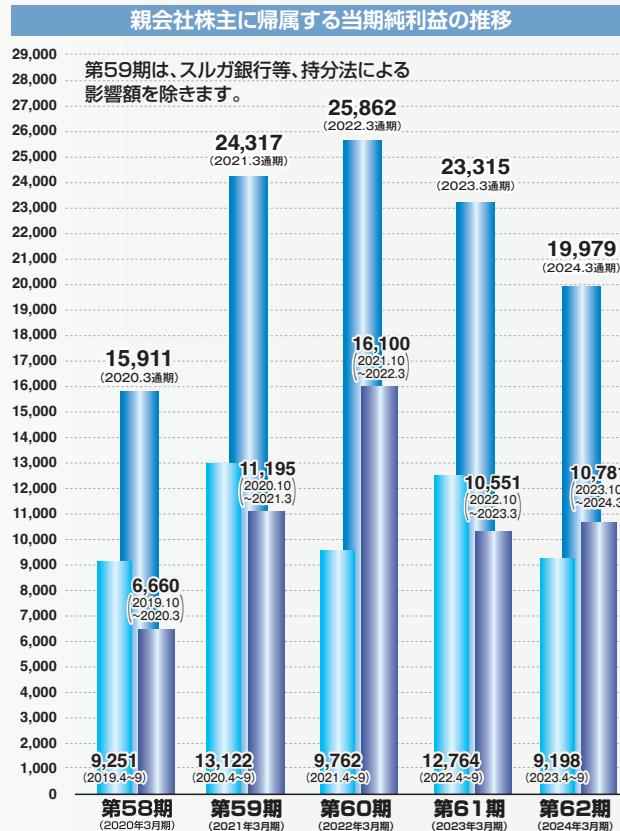
財務ハイライト

連結

■ 売上高 / 7,613億01百万円 ■ 経常利益 / 329億37百万円



■ 親会社株主に帰属する当期純利益 / 199億79百万円



(単位:百万円、単位未満切り捨て)

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

連結	第58期 2020年3月期	第59期 2021年3月期	第60期 2022年3月期	第61期 2023年3月期	第62期 2024年3月期
売上高	523,968	523,327	564,989	626,181	761,301
経常利益	24,218	36,137(※)	35,890	36,246	32,937
親会社株主に帰属する当期純利益	15,911	24,317(※)	25,862	23,315	19,979
1株当たり当期純利益(円)	158.56	534.21	261.44	238.83	203.67
総資産額	286,247	340,183	326,952	555,905	547,142
純資産額	90,268	144,296	140,101	161,056	178,920
自己資本比率	30.8%	41.8%	41.6%	28.2%	31.8%

※第59期の経常利益、親会社に帰属する当期純利益は、スルガ銀行持分法による影響額265億円を除いております。※58期の連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

決算の概況

連結

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

連結貸借対照表

	第61期	第62期
資産の部		
流動資産合計	353,409	353,434
固定資産合計	203,493	193,707
資産合計	556,902	547,142
負債の部		
流動負債合計	291,045	294,588
固定負債合計	104,797	73,631
負債合計	395,845	368,221
純資産の部		
資本金	6,330	6,330
剰余金その他	153,666	170,688
自己株式	▲6,002	▲6,293
株主資本合計	153,994	170,725
その他の包括利益累計額合計	2,523	3,464
新株予約権	2,682	2,628
非支配株主持分	1,856	2,101
純資産合計	161,056	178,920
負債純資産合計	556,902	547,142

61期は2023年3月31日現在。
62期は2024年3月31日現在。

連結損益計算書

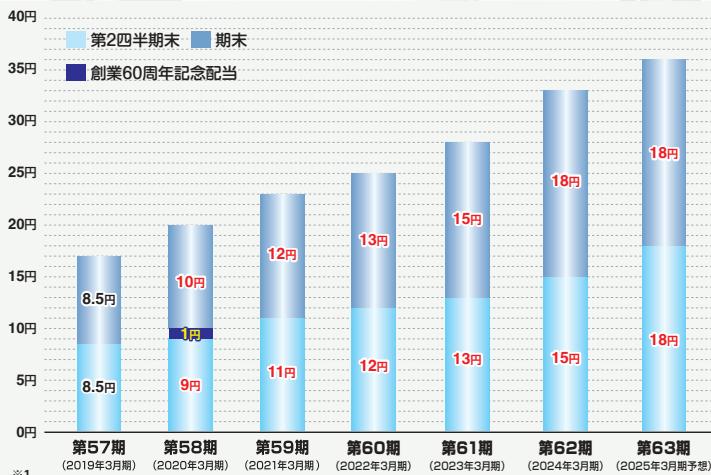
	第61期	第62期
売上高	626,181	761,301
売上総利益	181,617	219,554
営業利益	33,572	30,560
経常利益	36,246	32,937
税金等調整前当期純利益	36,112	32,883
親会社株主に帰属する当期純利益	23,315	19,979

連結キャッシュ・フロー計算書

	第61期	第62期
キャッシュ・フロー		
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,613	58,197
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲81,260	▲14,135
財務活動によるキャッシュ・フロー	30,618	▲45,803
現金及び現金同等物の期首残高	51,004	35,755
現金及び現金同等物の期末残高	35,755	34,960

61期は2022年4月1日から2023年3月31日まで。
62期は2023年4月1日から2024年3月31日まで。

配当金の推移



当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題のひとつと位置づけた上で、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保を勘案し、継続して安定した配当政策を実施することを基本方針としております。

また、当社は、中間と期末の年2回の剰余金の配当を行うことも基本方針としております。なお、剰余金の配当の決定機関は取締役会です。

第63期の配当予想は中間18円・期末18円の計36円としております。

※第57期から第60期の連結会計年度の期首に当該株式分割が行われた仮定として、1株当たり当期純利益及び、配当金の推移を算定しております。